村木　美貴　様

御発言配付資料

〔発言テーマ〕

人口減少社会で考えるべき都市づくりのあり方

2017.10.2（仮称）岐阜市未来ビジョン 第3回有識者会議

人口減少社会で考えるべき都市づくりのあり方

千葉大学大学院　村木美貴

今後、都市の抱える問題

2

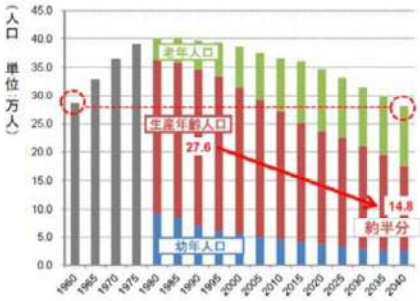
1. 地方都市の現状②

国土交通省

○ これまで、人口の増加に伴い市街地（DID）面積は拡大。例えば和歌山市の現在のDID面積は、1960年の面積から約3倍に拡大。
○ 2040年には、30年前の水準を下回るまで人口が減少、特に生産年齢人口はピーク時の約半分に激減。拡大した市街地において無秩序な空洞化が進行し、老年人口の増大と相まって生活サービスの享受が難しくなるおそれ。

（和歌山県和歌山市）

1960年DID
2005年DID
約3倍



出典：国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所（平成25年3月推計）

2

http://www.mlit.go.jp/common/000996817.pdf

1. オレゴン州ポートランドは、なぜ賑わうか？

まちは1日ではできない

4

土日開催のサタデーマーケット

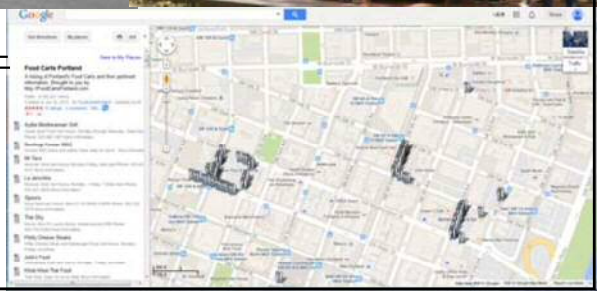
5

ファーマーズ・マーケット

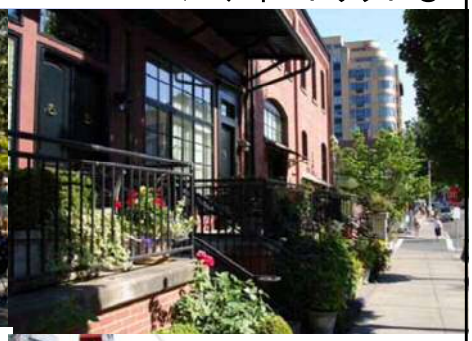
6

カートは増加 7

✓現在のカートは500店舗以上
✓成功者はカートから店舗へ



ガレージ街からミクストユースへ－パールディストリクト 8



都市成長管理の考え方 9

50年間の地域の将来像

今のトレンド継続

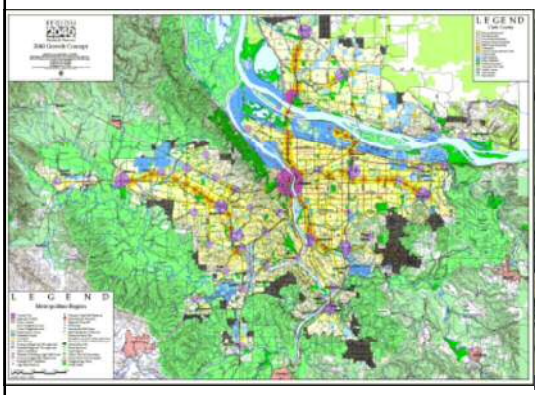
コンセプトA
UGB 25%増加

コンセプトB
UGB拡大なし

コンセプトC
衛星都市で対応

採用ケース

成長管理線による開発制限 10



オレゴン州では、人口の増加に応じたスマートグロースを実現。
ポートランドでは1979年より。

郊外のTOD事例ーOrenco Station周辺

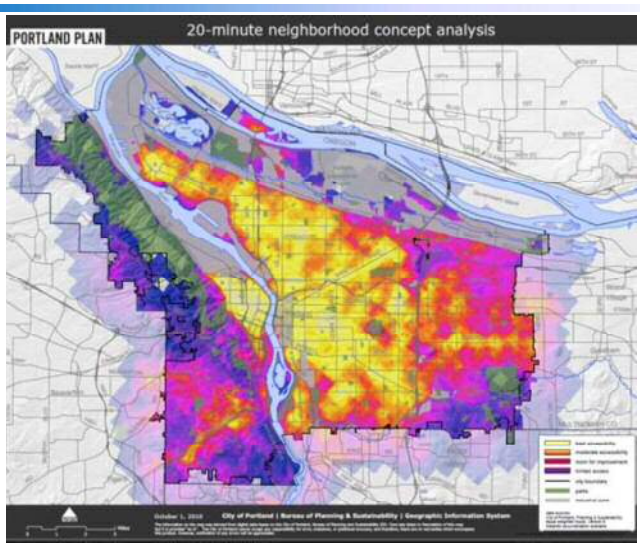
11

Orenco Station

駅前のPark &Ride駐車場

12

「歩いて暮らせる」の確認ーポートランド市20分生活圏　13



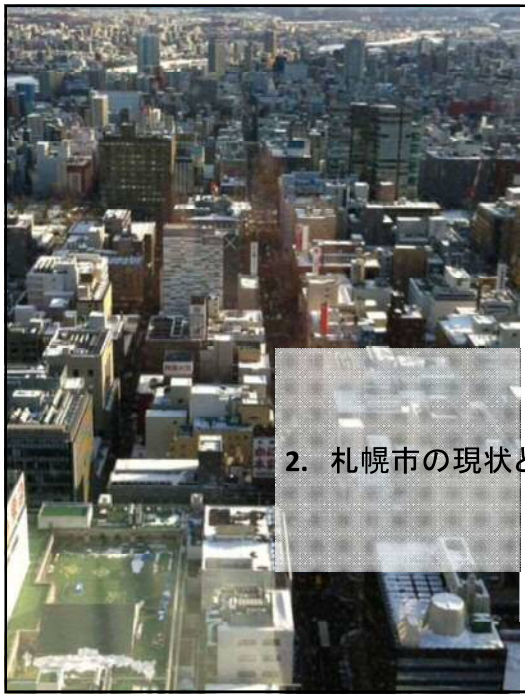
2030年には90%の地域が歩きと自転車で暮らせるエリアを実現させる。
→「歩いて暮らせる」行政政策に、市民はどう協力できるか？

なぜ、人口63万都市で賑わいが作れるか？　14

- ✓ 市街地がコンパクト
- ✓ 業務＋居住が混在
- ✓ デザインがいい
- ✓ トップエンドの市場を作っている
- ✓ 良い街をつくるための対話が長期間、同じ人達の間で作られている
- ✓ 組織間連携、行政内連携が行われ、同じプロジェクトのために複数の組織、人間が関与している

今、しなければならないこと

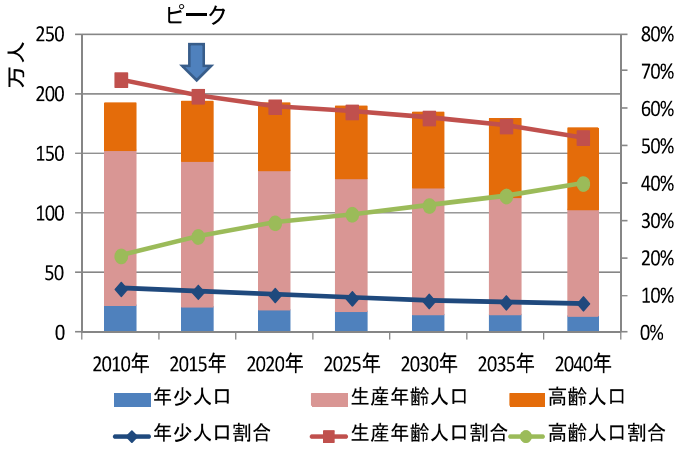
- ✓ 人口減少に向けて、どのようなコンパクトな土地利用を考えるか？
- ✓ そのために、何をするか？
- ✓ どのような体制で行うか？



2. 札幌市の現状と立地適正化計画

札幌市の現況

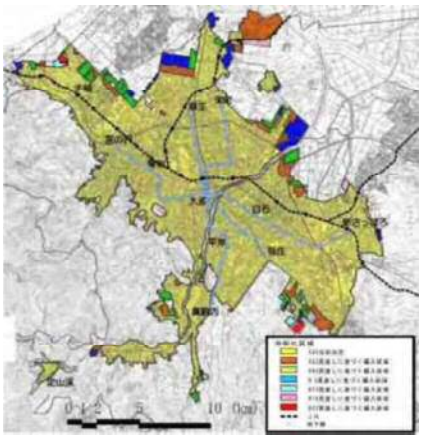
16



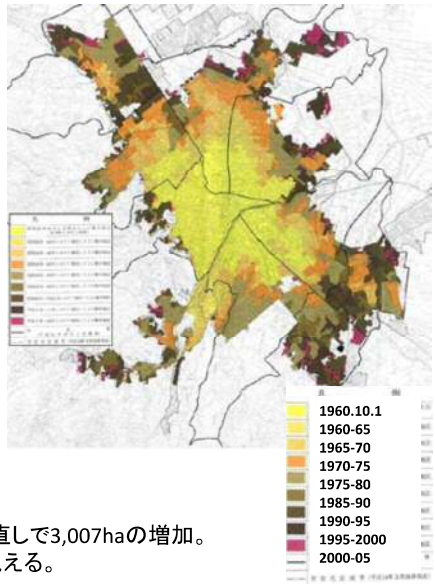
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

- ✓ 人口は緩やかに減少。
- ✓ 生産年齢人口割合が減少し、高齢人口割合が増加。
- ✓ 税収の減少が懸念される。

札幌市における市街化区域とDID面積の拡大　17



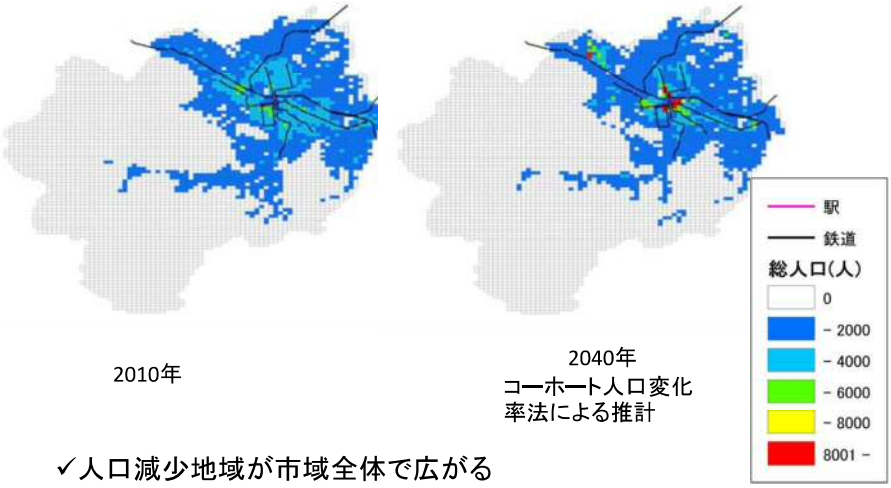
https://www.city.sapporo.jp/keikaku/download/documents/04-1_1.pdf



- ✓ 1970年の線引き時点で22,010ha、6回の見直しで3,007haの増加。
- ✓ 当初から市街化区域を広くしていたものと見える。

資料：札幌市の人口と住宅

総人口と将来予測　18

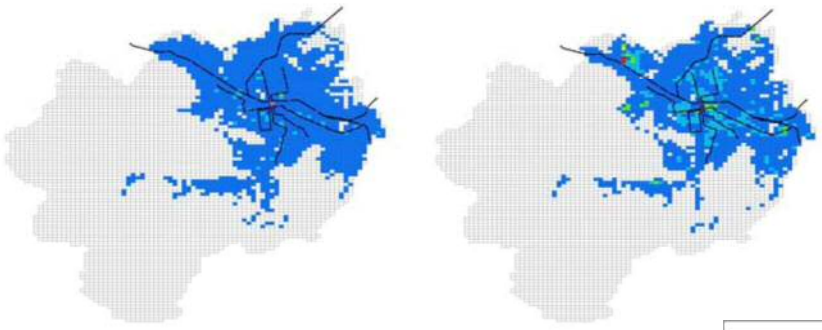


2010年

2040年
コーホート人口変化率法による推計

✓人口減少地域が市域全体で広がる
✓都心部と郊外拠点で人口増加エリアが見られる

高齢人口 19

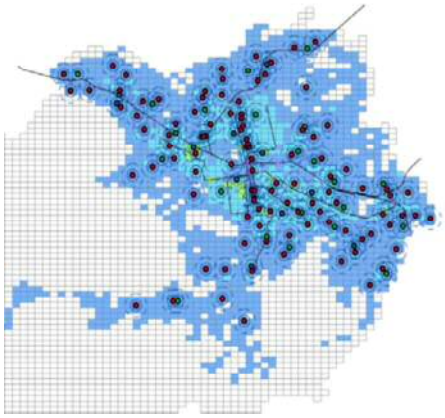


2010年

2040年
コーホート人口変化
率法による推計

✓高齢人口は市域で広く増加
✓鉄道、地下鉄駅から遠いところで人口増加
✓高齢者への対応・対策が求められる

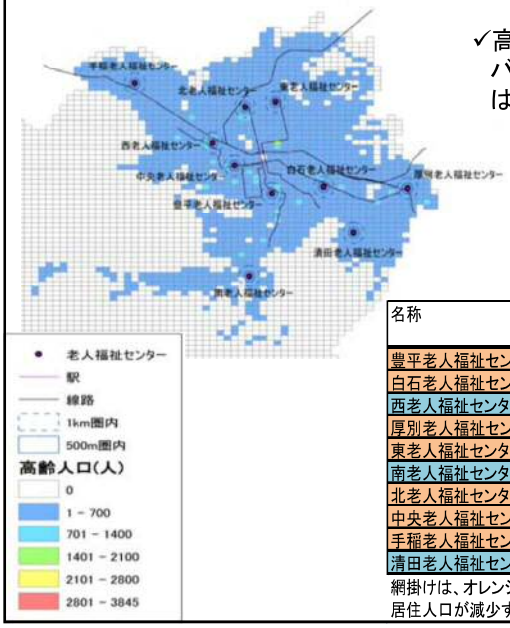
児童館、コミュニティセンター等のカバー率 20



	半径500m圏		半径1km圏	
	2010年	2040年	2010年	2040年
人口カバー率(%)	28.5	20.8	76.4	51.8
居住人口(人)	544,912	356,530	1,462,178	886,780

✓**1km**圏内だと人口の**76%**をカバー。ただし、**2040**年のカバー率が減少。

老人福祉センターのカバー率　21



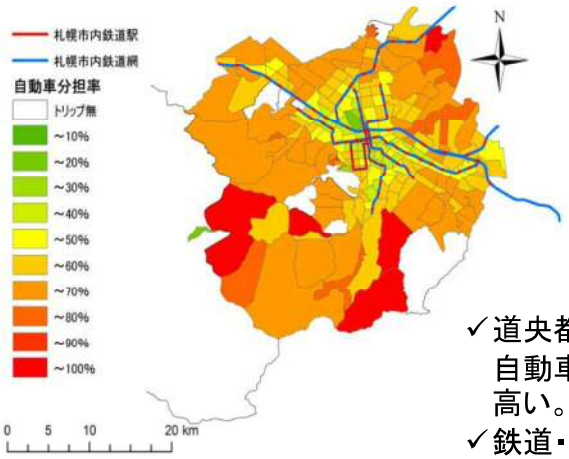
✓高齢者人口の老人福祉センターのカバー率が500m圏2.5%から2040年には1.9%へ

	半径500m圏		半径1km圏	
	2010年	2040年	2010年	2040年
高齢人口カバー率(%)	2.54	1.98	11.4	7.97
高齢人口(人)	10,016	13,528	44,770	54,466

名称	半径500m圏高齢人口(人)		半径1km圏高齢人口(人)	
	2010年	2040年	2010年	2040年
豊平老人福祉センター	860	1,571	5031	7,731
白石老人福祉センター	1096	2,180	5326	5,833
西老人福祉センター	1742	11	7283	67
厚別老人福祉センター	1222	1,428	4336	3,572
東老人福祉センター	989	1,586	4561	7,858
南老人福祉センター	400	2	1446	9
北老人福祉センター	1266	2,270	4501	7,263
中央老人福祉センター	894	2,851	4997	9,330
手稲老人福祉センター	1112	1,621	4346	11,786
清田老人福祉センター	435	8	2943	1,017

網掛けは、オレンジ色が施設圏内居住人口が増加する施設、水色が施設圏内居住人口が減少する施設を表す。

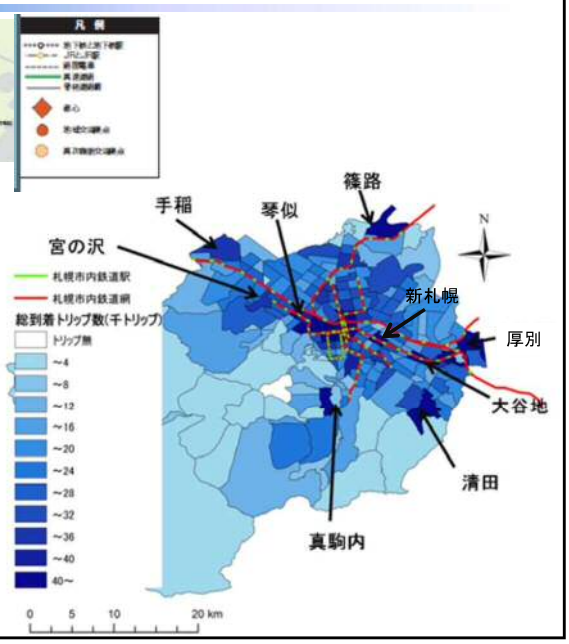
自動車分担率ー郊外ほど分担率が高い　22



✓道央都市圏PT調査から、自動車分担率は郊外ほど高い。
✓鉄道・地下鉄沿線でも35%程度でいかに公共交通への転換を図るか？

行政計画の拠点と到着トリップ数の多い地区の差　23

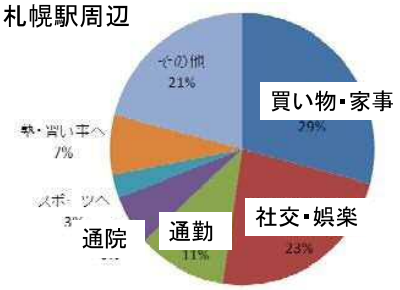
出典）まちづくり戦略ビジョン（2013）



- ✓ 拠点としての位置づけがあっても到着トリップ数が多いとは限らない。
- ✓ 行政の指定する拠点と利用に差のあること

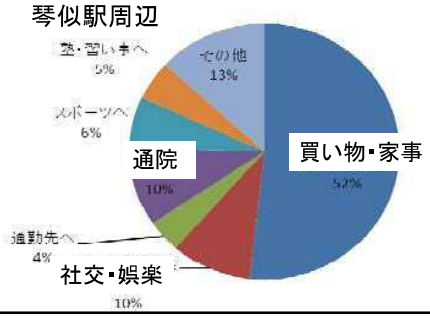
高齢者の私事目的別到着トリップ　24

札幌駅周辺

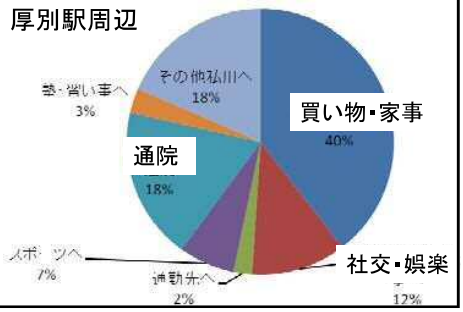


- ✓ 私事目的では、拠点に、買い物・家事、社交・娯楽、通院等のために移動する場合が多い。
- ✓ 郊外拠点に行く目的は買い物・家事によるものが多い。
- ✓ 集約拠点として整備するためには、買い物、社交、病院の集積が重要？

琴似駅周辺



厚別駅周辺



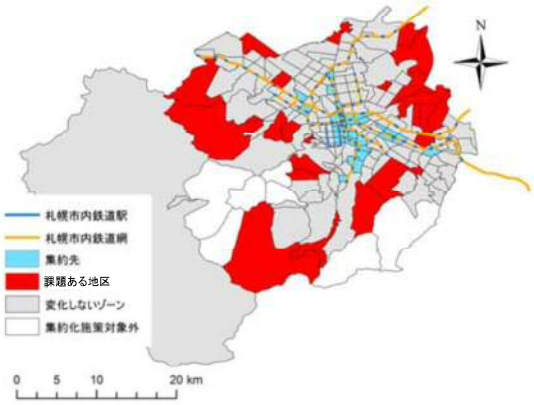
課題のある地区はどこか？ 25

- 同じ課題ある地域でも、建替え等で手入れされている地域と、そうでない地域のあること→郊外住宅地のブランド？

課題ある地域を考える上での指標

人口(2010)	自動車分担率(2040)
人口(2040)	公共交通分担率(2040)
高齢者(2010)	徒歩・二輪車分担率(2040)
高齢者(2040)	自動車到着トリップ数(2010)
高齢化率(2010)	総計到着トリップ数(2010)
高齢化率(2040)	徒歩・二輪車到着トリップ数(2010)
人口密度(2010)	公共交通到着トリップ数(2010)
人口密度(2040)	自動車到着トリップ数(2040)
年少人口(2010)	総計到着トリップ数(2040)
年少人口(2040)	徒歩・二輪車到着トリップ数(2040)
自動車分担率(2010)	公共交通到着トリップ数(2040)
公共交通分担率(2010)	築年数(平成23年)
徒歩・二輪車分担率(2010)	世帯当たりの自動車保有台数
	公示地価

課題ある地区と集約候補地 26



✓ 主成分分析結果に寄与率を掛けたものを総合点として課題ある地区のランキングを考える。
✓ 課題ある地区上位33ゾーンまでに、30万9000人が暮らす。

データと行政資料から明らかになったこと　27

- ✓ 鉄道駅周辺、拠点市街地を中心にコンパクト化を進めたいこと
- ✓ 拠点市街地のうち「拠点性」の高いところとそうでないところの存在すること
- ✓ 公共交通分担率が低いため、コンパクト化には積極的な推進策が必要なこと
- ✓ 高齢者は公共交通不便地域にも多く居住する可能性が高いため、積極的な集住化が求められること

↓

- いかに人を集約化するか？
- どこからどこに集約化させるか？
- 集約化の効果はどのくらいか？
- どのようなインセンティブとディスインセンティブが必要か？

札幌市立地適正化計画　①目標　28

都市づくりの理念

（スマイルズ・シティ・サッポロ）
S・M・I・L・Es　City　Sapporo
～誰もが笑顔でいきいきとすごせるまちへ～

＜都市づくり全体の視点から＞

■高次な都市機能や活発な経済活動により、都市の魅力と活力を創出し、道内をはじめ国内外とつながり北海道をリードする**世界都市**

■超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集積することで、円滑な移動や都市サービスを享受できる**コンパクトな都市**

■自然と調和したゆとりある郊外での暮らしや利便性の高い都心・拠点での暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された**札幌らしいライフスタイルが実現できる都市**　**郊外など**

■公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる**低炭素都市**　**都心中心に検討**

■都市基盤が効率的に維持・保全され、都市活動が災害時にも継続できる**安全・安心な都市**

＜身近な地域の視点から＞

■**多様な協働**による地域の取組が連鎖する都市

②取り組みのシナリオ　29

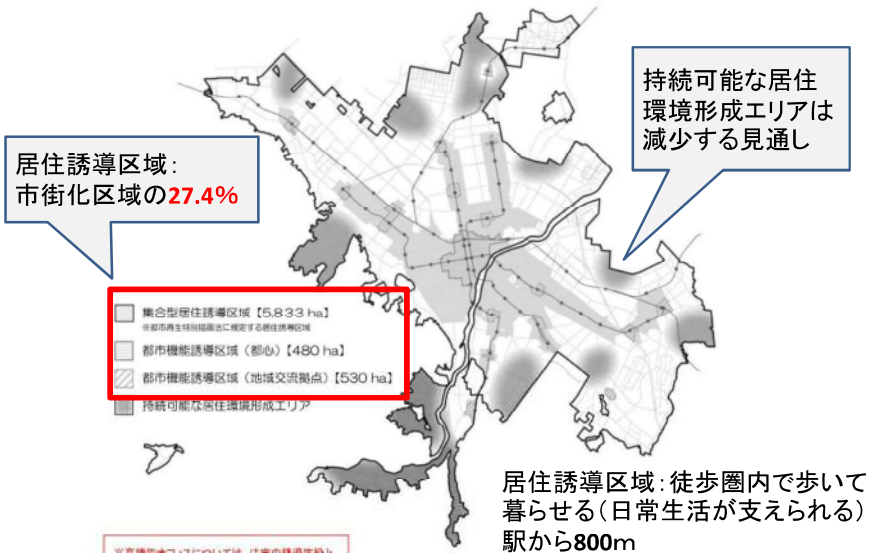
●都市機能誘導区域　都心と地域交流拠点
●集合型居住誘導区域
　人口分布の偏在を是正し、事項密度の維持・増加を図る。そのため土地の高度利用を進める。
●持続可能な居住環境形成エリア
　良好な環境を備える公害での暮らしを支える。地域の課題解決を図る。

表２　日常生活を支える利便施設の立地状況

日常生活を支える利便施設	立地状況	
	集合型居住誘導区域内	集合型居住誘導区域外
医療施設（内科又は外科を有する病院・診療所）	ほぼ全域で徒歩圏内に立地（近年増加傾向）	ほぼ全域で徒歩圏内に立地
商業施設（食料品取扱店舗）	ほぼ全域で徒歩圏内に立地（近年増加傾向）	徒歩圏内に立地していない地域も存在
福祉施設（通所系、訪問系施設及び小規模多機能施設）	ほぼ全域で徒歩圏内に立地	ほぼ全域で徒歩圏内に立地
子育て関連施設（幼稚園・保育所）	ほぼ全域で徒歩圏内に立地	徒歩圏内に立地していない地域も存在
	※全市的に待機児童が多い現状では、全体的な量的拡大が求められているが、集合型居住誘導区域のみに誘導すべきものではない。	

公共サービス機能：区役所、区民センター、図書館、区保育・子育て支援センター

③区域や誘導施設の設定　30



3. 集約化の利点と都市づくりで考えること

集約化の利点

32

賑わい
- コンパクトだから活動が凝縮
- 人が集まれば交易が生まれる→中心市街地活性化との関係
- 様々な機能が集積
- 公共投資の集約化→税収の減少への対応

低炭素型市街地形成ーエネルギー
- エネルギー密度を上げることができる
- 熱利用は遠くに行くとロスが生じるので、密度高く市街地が集約化していること

交通
- 集積地域間に公共交通ネットワークを作ることができる
- 利用者の増加が見込める
- 移動距離が短くなり、エネルギーの利用が減少

都市構造と都市計画

33

(1)都市構造をどのように変えていくか？

◆人口減少するだけでCO_2排出量は減るが、効率的な自治体経営を考えるとスマートシュリンクが必要
◆課題ある地区は存在する。手当をするか、縮退するか？
◆他の計画といかに連携をしていくか？もっとも大きな課題は計画年限の相違。特に高齢福祉とのすり合わせをどのように行うか？

◆拠点への集積を誘導し、交通不便地域で開発がしづらい状況をつくる必要性
→立地適正化計画での居住誘導区域、都市機能誘導区域をどのように実現するか？
◆公共交通へのシフトの誘導。→富山型の拠点で降りれば低額な運賃など、「得」と活性化のセットは？

34

(2)郊外拠点での土地利用

◆現在人が集まる郊外拠点の土地利用のあり方の検討。高密度化。TOD。
→低炭素まちづくり計画での集約市街地の検討or立地適正化計画
◆自立化が可能な郊外をつくるー医療福祉施設、最寄り・買い廻り空間の充実。
◆グリーンビルの建設誘導と分散型エネルギーの導入検討、および接続方法の検討（義務化？）

(3)実現の方法

◆ まちづくりは時間がかかる。市民は固定。行政は異動。全員異動でいいか？
◆ 縦割りは簡単、横串は難しい。歳入減少時には、少ない資金でいかに複数目的を実現させるか？